

【技術の名称】 T-HR 構法 -大成式ヒンジリロケーション構法- (改定1)	性能証明番号：GBRC 性能証明 第21-15号 改1 性能証明発効日：2024年5月29日
	【取得者】 大成建設株式会社

【技術の概要】

本技術は、鉄筋コンクリート造梁の梁端主筋に機械式継手あるいは定着金物を設けて梁主筋の径、強度または本数を変化させることで、塑性ヒンジ発生位置を柱フェイス位置からスパン中央側の機械式継手端部位置あるいは定着金物位置へ移動させる構法である。

【改定の内容】

新規：GBRC 性能証明 第21-15号 (2021年12月28日)

改定1：GBRC 性能証明 第21-15号 改1 (2024年5月29日)

- ・梁主筋の機械式継手の製品および充填モルタル種類の追加
- ・接合する梁主筋の組合せに1鋼種2径差、同鋼種2径差を追加
- ・梁のせん断スパン比 a/D の下限を2.5から2.2に拡大
- ・梁材端の貫通孔設置にスリーブタイプを追加し、条件を $F_c \geq 30N/mm^2$ に拡大

【技術開発の趣旨】

本構法は、(1)柱梁接合部および梁端区間の梁主筋を梁中央区間よりも太径や高強度とし、モルタル充填式の機械式継手を用いて梁中央区間側の主筋と接続すること(スリーブタイプ)、(2)所要の本数の梁端区間の主筋をカットオフし、それらの先端に定着金物を設けること(カットオフタイプ)、の2種類の方法によって梁の塑性ヒンジ発生位置をスパン中央側へ移動させる。塑性ヒンジの移動位置は、柱フェイス位置から梁せいの0.4倍~1.0倍とし、梁端区間および柱梁接合部の損傷を抑制し、梁曲げ降伏後の架構の耐震性を向上させる。

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「T-HR 構法 設計施工指針」に従って設計・施工された鉄筋コンクリート造梁は、長期荷重時の使用性、短期荷重時に修復性を損なうひび割れを起こさず、同指針で定める終局耐力および変形性能を有する。

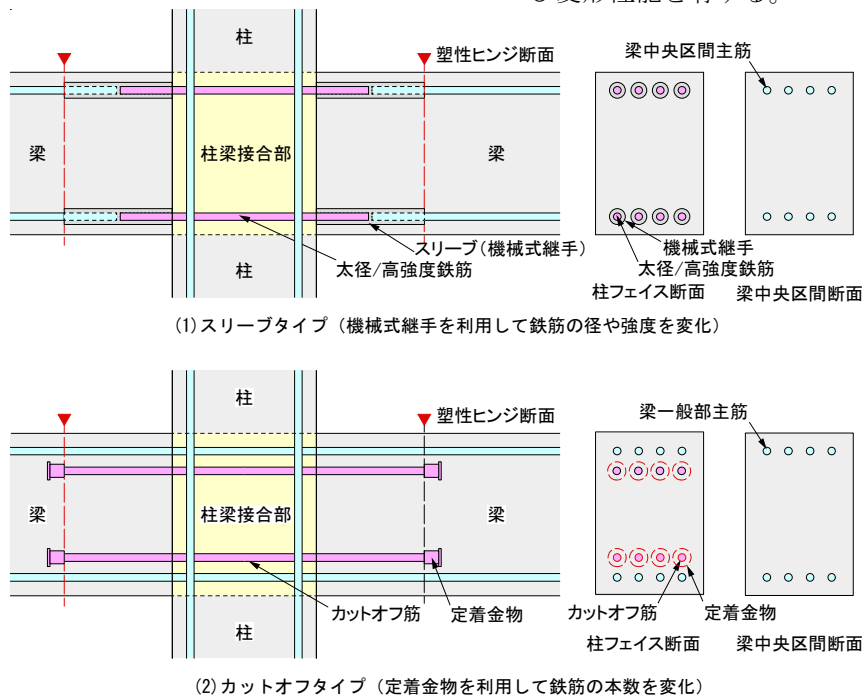


図-1 T-HR 構法の概要図

【本技術の問合せ先】

大成建設株式会社 担当者：杉山 智昭
〒245-0051 神奈川県横浜市戸塚区名瀬町 344-1

E-mail：sgytma00@pub.taisei.co.jp
TEL：045-814-7221 FAX：045-814-7251